

## 第10回まつやま景観賞表彰式 & 景観シンポジウム

第10回を迎える「まつやま景観賞」の受賞物件を表彰するとともに、市民の皆さんと松山のこれからの景観まちづくりについて一緒に考えるシンポジウムを開催します。

**日時** 2月10日(金)13時30分～16時30分

**会場** 坂の上の雲ミュージアム(一番町三丁目)2階

**内容** 第1部=表彰式▶第2部=建築家・長谷川逸子さんによる基調講演、パネルディスカッション

**定員** 100人(先着順)

**申し込み** 2月7日(火)までに、ファクスまたはeメールで、住所、氏名、電話番号を都市デザイン課 [toshikeikan@city.matsuyama.ehime.jp](mailto:toshikeikan@city.matsuyama.ehime.jp)へ

※詳細は市ホームページを確認



第9回きらめき大賞 森の回廊-L∞P-/大谷歯科矯正歯科

〒790-8571 都市デザイン課 ☎948-6848 ・ ☎934-1807

## 美しい街並みと賑わい創出事業補助金

### 事業募集

**内容** 市が定める計画対象区域内の歴史的建造物の保全・改修、ファサード(道路に面した壁面)・にぎわい創出施設、回遊性を高める施設の整備など(審査あり)

**対象** まちづくりを行う団体・個人など

**申し込み** 5月31日(水)(必着)。直接または郵送。事業計画書など(都市デザイン課〈市役所本館7階〉または市ホームページ)にあり)を〒790-8571都市デザイン課へ

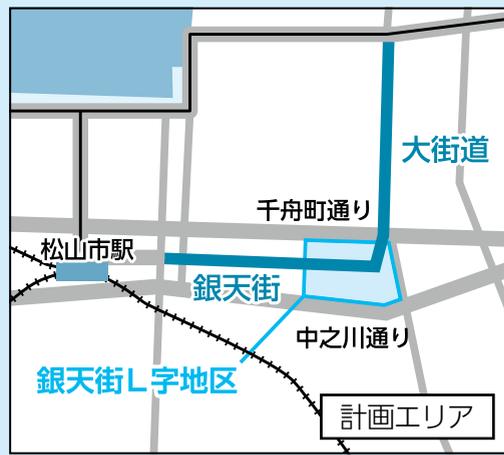
### 寄付金募集

**内容** 事業活動の補助金として活用

**申し込み** 随時受け付け。直接または郵送・ファクス・eメール。寄付申請書(事業計画書などと同所にあり)を都市デザイン課 [design@city.matsuyama.ehime.jp](mailto:design@city.matsuyama.ehime.jp)へ



補助金を活用して整備した建物



本市では、銀天街L字地区が目指す都市再生のあり方などを示す基本計画を策定しました。「暮らしと賑わいの共生」を将来ビジョンに、「ゆとり」「安らぎ」「安心」などの機能を付加し、松山の新たな「交流核」を創出します。具体的にはアーケードや路地裏といった都市の骨格を生かしながら、段階的・連鎖的な建物更新(建て替え・リノベーションなど)を行います。

### 銀天街L字地区再開 発等基本計画を策定

〒790-8571 都市デザイン課 ☎948-6466 ・ ☎934-1807



授業をする野志市長

市内の小・中学生に仕事を体験してもらい、働くことの楽しさや厳しさを学び、地元企業への関心と理解を深めてもらう。平成28年12月18日、「キッズジョブまつやま2016」が開催され、医療・福祉・サービス業など61ブースに約1600人が訪れました。

今回は市長体験ブースが設けられ、野志市長が授業を行いました。授業では子どもたちが「松山市長」になり、福祉や観光、教育など10の課題に対し、どの分野をどのくらい重視し予算配分をするか疑似体験し、意見交換。子どもたちは悩みながらも、思い思いに予算を配分していました。

## 「キッズジョブまつやま2016」 子どもたちがさまざまな仕事を体験

授業の最後に野志市長は「自分たちの可能性を信じ、いろいろなことに夢や希望をもってチャレンジしてほしい」と子どもたちを激励しました。

**いろいろな仕事があつて大変**

自分たちのまちの市長がどんな人で、どんな仕事をしているのか気になり、参加しました。病気やけがをした人を助けたり、地震などからみんなを守ったり、いろいろな仕事をみんなの意見を聞いてまとめながらやっていて大変だと思いました。

赤坂 陽友さん (新玉小3年)

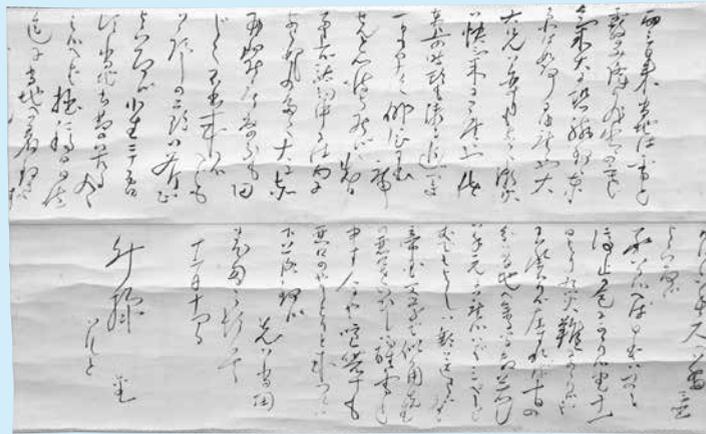
5 ☎9477911

☎(教)教育支援センター事務所 ☎93320



## 子規・漱石生誕150年

## 子規記念博物館資料紹介①



「夏目漱石の子規あて書簡」(明治28年12月14日)

「夏目漱石の子規あて書簡」(明治28年12月14日)

明治28年、正岡子規は日清戦争の従軍記者として清国に渡っていましたが、結核を悪化させて松山に帰省し、愛媛県尋常中学校の英語教師として赴任していた夏目漱石と「愚陀佛庵」で52日間の同宿生活を送りました。この書簡は、同宿生活ののち東京に戻った子規に、漱石が愚陀佛庵から出したものです。

このころの漱石は、同宿中に子規から手ほどきを受けた俳句に熱中しており、俳句を作っては子規に送り、それを子規が添削して送り返すというやりとりを熱心に行っていました。この書簡も、そうしたやりとりの一つで、同封した俳句の添削の依頼とともに、近いうちに自身も上京するので、早く子規の句会に出席したいと思っているという内容が書かれています。

漱石の松山滞在時の資料は数が少なく、また子規が漱石に与えた影響や、二人の関係がよくわかる資料という面からも興味深い書簡です。

この資料は4月から始まる特別企画展で公開する予定です。

子規記念博物館 ☎9315566 ・ ☎9343416



「上野方(愚陀佛庵のこと)夏目金之助」と書かれた封筒